

ひょうご安全の日推進県民会議総会開催結果

- 1 開催日時 平成26年4月17日(木)10:00~11:40
- 2 開催場所 兵庫県民会館11階パルテホール
- 3 参加者数 200人(一般参加者、ひょうご防災特別推進員、県・市町職員含む)
- 4 内 容
 - (1) 開始宣言
(武田 政義 ひょうご安全の日推進県民会議副会長((社福)兵庫県社会福祉協議会会長))
阪神・淡路大震災から20年を迎える節目にあたり、「阪神淡路20年」事業を多くの県民、団体、NPO、企業の参画と協働のもとで実施することを宣言
 - (2) ひょうご安全の日を定める条例・前文朗読(参加者全員)
 - (3) 基調スピーチ
「阪神淡路20年 1.17は忘れない」(井戸 敏三 兵庫県知事)
震災からの復興の取組みと「阪神淡路20年」に向けて取り組む事業のコンセプトや主な事業の概要を説明
「災害への備えとしての4つの課題」(室崎 益輝 兵庫県立大学防災教育センター長)
災害に備えるには、災害を正しく学び、正しく恐れ、正しく備えることが大切であり、率先して避難する「みんなで避難」やコミュニティ備蓄など「互助」の大切さ、家族・地域・職場毎の防災計画(マイプラン)の策定プロセスとその実践を通じたコミュニティ防災力向上に向けた取組みなどを提案
 - (4) 関係団体からのメッセージ
参加者から県民総参加「減災」キャンペーン実施に向けたメッセージをいただいた。
安田 義秀 県商工会議所連合会常務理事・事務局長(商工関係)
BCP(事業継続計画)の取組みの推進と企業市民として地域と一緒に防災・減災に取り組む
北野 美智子 兵庫県連合婦人会会長(地域団体関係)
自治会・婦人会・老人クラブなどの地域団体と行政と一緒に減災に取り組むことが大切である
広瀬 朋義 神戸市危機管理監・理事(行政関係)
震災の記憶や復興の経験、教訓を継承し、まちの安全・安心を高める都市として震災20年の事業を展開していく
久武 伸之介(一社)神戸青年会議所理事長(助成団体)
安全・安心して暮らし、働ける社会の確立を目指して、防災・減災に対する意識を高めるために毎月17日にメディアや街頭でのPR、家庭や事業所での減災活動等に取り組む
 - (5) 参画と協働のよびかけ(県広報専門員)
「阪神淡路20年」の取組について、参加者へ参画と協働の呼びかけを行いました。

事業の実施 各団体等恒例のイベント・行事において「減災」を加えることを検討
事業の登録 「阪神淡路20年」の趣旨に賛同し県民等が実施する事業を登録して発信
啓発・発信 「減災」キャンペーンののぼり・パンフレットの配布等啓発へのご協力
発信の応援 facebook、Twitter での情報発信へのご協力

(6) 「減災活動の日」の決議

(岸谷 義雄 ひょうご安全の日推進県民会議副会長((公財)兵庫県消防協会))

毎月17日を「減災活動の日」とし、住宅の耐震化・室内安全・備蓄・避難の4つを重点目標として県民、構成団体、事業者など県民総参加で減災活動に取り組むこととすることを決議しました。